

# 森林研修所ニュース

平成27年7月

No. 73

## 巻頭言

林野庁 経営企画課長 瀧上 和之

日本の森林の3割を占める国有林を管理経営してきた国有林野事業は、一昨年の平成25年4月に特別会計から一般会計に移行しました。

新しい国有林の役割は大きく2つあります。1つ目は、奥地水源地域や集中豪雨・地震による崩壊山地の保全。白神・屋久島等世界自然遺産のような貴重な天然の森林をしっかり守っていくことなど、「公益重視の管理経営」を一層推進していくことです。2つ目は、国有林の3割を占める人工林を中心とした林業経営の実践を通して、日本林業が直面する低コスト化や国産材の安定供給など様々な課題の解決に向けて、積極的にチャレンジし実践していくことにより「森林・林業の再生」に貢献することです。

その達成には、いずれも、職員の知識や技術力の向上が重要になってきます。いくつかの事例を紹介してみます。

大正4年に誕生した国有林の保護林制度は今年でちょうど100年目にあたり、白神・屋久島・小笠原などの貴重な森林生態系を保護してきました。その面積も青森県の面積に匹敵する約100万ヘクタールに至ります。最近の生態学や生物多様性保全に関する科学的知見は進歩し、温帯性針葉樹林である木曾ヒノキについては人為による積極的な管理や復元の考え方も導入され、保護林制度に関する有識者会議の提言の中にも、管理にあたっては職員の人材育成が一層望まれるということが記述されています。

さらには、シカの被害対策、希少動植物の保全にあたっては、効果的な捕獲技術の開発、野生動植物管理の専門的な人材の育成も急務になっています。

また、林業の成長産業化を実現させ、山村地域の創生に貢献するため、低コスト林業の様々な技術開発や民有林への普及などに積極的に取り組んでいく必要があります。そのためには職員の能力向上が必須となってきます。

国民の期待に応えられるような森林・林業のプロ集団を目指し、職員一人一人のレベルアップを図っていくことが、一般会計化以後の大きな課題です。

森林技術総合研修所は、我々林野庁職員のみならず自治体職員や民間の方々にとって、森林・林業・木材産業・木造建築など循環型社会の構築に向けた大事な研修の機会と自己研鑽のきっかけを与えてくれます。引き続き有意義な研修の実施を期待しております。



# 平成27年度 総合職新採用研修

## 教務指導官 松下 英之

今年度の総合職新採用研修は、4月20日から24日までの5日間、林野庁の新規採用者17名を迎えると共に国立研究開発法人森林総合研究所からの聴講生8名を加え、受講者総勢25名で行いました。

初日は、林野庁で長官の訓辞、林政課長の講話、東京大学名誉教授太田先生の講義等を行いました。2日目以降は、高尾の研修所に移動し演習や現地見学・実習を中心とした研修を行いました。

図面の見方や判読方法の演習では、影信山、小仏山、高尾山を縦走しましたが、少しも疲れた様子を見せず、夕食時は盛り上がっていました。



測量・収穫調査の実習  
測量を行う研修生。中にはコンパスの使用が初めての人も。



チェーンソーの使い方の実習  
はじめは恐る恐るでしたが、少し慣れればこのとおり。

測量・収穫調査実習での交替作業では、未経験者も多かったせいかコンパスの指針を南北逆に読んでしまい、図面作成時に調査区域が閉合しないといったこともありました。

また、森林所有者の山林や原木市場、製材工場の見学では、研修生から熱心な質問が多数あり、見学時間が少々オーバーするなどしましたが、それだけ中身の濃い研修となったのではないのでしょうか。

本研修では、林野庁職員として身に付けておくべき知識・技術の一部を体験したに過ぎませんが、今後も経験を積んで総合職としての役割を果たしてほしいと期待するところです。



高尾山山頂にて記念撮影  
影信山、小仏山、高尾山の三山を登頂。

# 平成27年度 総合職新採用研修

## 研修生からの一言

平成27年4月20日～24日の期間で行われた総合職新採用研修において、「研修を受けて感じたことや、これからの抱負、仲間へのエール」などを研修生に自由に記入してもらったものです。

※なお、人数等により一部抜粋した掲載としました。研修生の生の声を掲載するため、必要最低限の修正にとどめ、所属・氏名は省略しています。

- ★事務職としては、この研修で、民有林、国有林、製材所をバランス良くみることで大変自分の今後の仕事に参考になりました。
- ☆林業への無知を実感し、また林業のおもしろさも感じた。実際現場に出向き、国への不平・不満などを聞くことで、仕事を行ううえでの問題意識・インセンティブが生まれた。
- ✱林業・木材産業で働く方の抱える課題を学ぶことができ、有意義でした。
- ✧非常に貴重な経験の場を頂けました。この経験を今後の職務に活かしていけるよう努力を継続していきます。
- ◆自分の特に知識の足りないところ、興味があるところなどを再認識することができました。今後広い視野をもてるように、今回得た知見を大事にしたいです。
- ✧たくさんのことを実際に見て・聞いて、体験することを忘れず、仕事に活かしていきたい。また、森林総合研究所の皆様と、お近づきになれたことも大きな収穫となりました。
- ★日本各地の現場を見ることで、様々な課題を認識し、対応できるようにしていきたい。
- ☆抱負は、事務官も、技官の人や現場の人と対等に、林業・森林について熱く語れるよう、専門知識を身につけることである。
- ✧林業への林野庁の関わり方、これからの国有林のあり方、林業のあり方、様々なことを考えるいきっかけになった。
- ☆川上から川下までの流れを肌で感じるができる貴重な経験でした。霞ヶ関では、今回見た現場のことを常に心に置いて業務に励んでいきたいです。



沖倉製材所見学



多摩木材センター見学



育林家 池谷さんの説明を聞く

# 平成27年度 一般職（大卒程度）新採用研修

## 教務指導官 福嶋 貢史

平成27年度 一般職（大卒程度）の新規採用職員69名を対象に、4月7日から10日までの4日間、新採用研修を行いました。

近年にない大人数の新採用研修となりましたが、はじめに森林・林業の基本的なことや森林の多面的機能について学んだ後、林野庁において今井林野庁長官の訓辞、林野庁幹部から林野庁職員としての心構えや森林・林業・木材産業の現状・課題等について講話をいただきました。これから林野庁職員としての人生で一度に6人の幹部の訓辞や講話を聞くことは最初で最後？の貴重な機会でもあり、全研修生が真剣に聞き入っていました。

林野庁へ移動の際、研修所のある高尾は朝から季節はずれの雪が降り、通勤ラッシュ時の集団移動となりました。案の定、乗換駅では数名の研修生が満員電車に乗ることに躊躇し、後続の電車に分かれて乗るといふハプニングも発生しました。色々なことがあった一日でしたが、幹部講話はもとより忘れ得ぬ一日になったのではないのでしょうか。

また、多摩木材センター（木材市場）と沖倉製材所の見学で、夕方はかなり寒くなり薄着の研修生はブルブル震えていましたが、講師の熱のこもった説明で寒さも和らぎ？川下の現状や取組状況を理解した様子でした。

4日間の短い研修ではありましたが、同期との一体感が醸成されたと思います。初心を忘れず、69名のつながりを大切にしつつ、お互い切磋琢磨しながら森林・林業発展のための一翼を担うことを期待します。



今井長官から訓辞



沖倉社長によるワークショップ形式の講義



この研修だけでバスが4台も、人数の多さがわかります。



降雪の中、研修所から林野庁への移動

# 平成27年度 一般職（大卒程度）新採用研修

## 研修生からの一言

平成27年4月7日～10日の期間で行われた一般職（大卒程度）新採用研修において、「研修を受けて感じたことや、これからの抱負、仲間へのエール」などを研修生に自由に記入してもらったものです。

※なお、人数等により一部抜粋した掲載としました。研修生の生の声を掲載するため、必要最低限の修正にとどめ、所属・氏名は省略しています。

- ★ひとまず職場に慣れる。最低限のマナーを身につける。
- ☆常に国民目線を持ち、担当の業務だけでなく、全体を見渡し積極的に取り組んで参ります。
- ✱みんな面白くていい人だったので、みなさんと同期で林野庁に入れたことを、とてもうれしく思います。
- ◇皆さんとは、必ずどこかで会うことにはなりますが、林野庁を通じて森林・林業を良いものとしていく仲間として共に頑張れたらと思います。
- ◆自分に出来ること、やりたいことが大分明確化してきた。職員として林野庁の仕事を早く覚え、自分が行いたい流通に関わりたい。
- ✱国の森林政策を代表する人間として責務を果たせるよう、まずは直近のことや仕事の基本から十分に習得したいと思う。
- ★失敗を恐れる人が多いと思いますが、新採で間もない時期は、失敗ができるよい機会ですので、失敗から多くを学んでください。
- ☆日本の大切な森林を保全するとともに国産材の生産・流通・消費に関わる全ての人が幸せになれるよう尽力します。
- ✱たくさん知ることや学ぶことがあり大変ですが、それが良い経験となり、よい思い出になると思います。
- ☆実際に業務を行っていくので毎日勉強をしつつ、仕事に対して積極的に行っていきたいと思います。
- ◆根詰めすぎないように、ほどほどに頑張っ、林業や国に少しでも貢献できように働きましょう。
- ✱一刻も早く林野庁職員として求められる知識を身につけ、活躍したいと考えています。



林野庁での講義



沖倉製材所作業員からの説明を聞く



多摩木材センターでの講義

# 平成27年度 一般職（大卒程度）新採用研修

## 研修生からの一言

- ★全国から同期が集まるということでもとても貴重な体験ができとても良かった。また、多くの刺激を受け改めて社会人としての自覚が強まった。
- ☆働きたかった国有林で働くことができるという気持ちと、国家公務員として、林野庁職員の一人として林野行政に携わっていくことに改めて身が引き締まる思いです。
- ★同期のみんなには色々なタイプがいるけど、不安なのは一緒だと思います。これからは、同期のネットワークを大切に頑張っていきたいと思います。
- ☆森林・林業の公益的機能、多面的機能を深く理解し、職務を通じて活気ある中山間地域の創出を目指したいです。
- ◆JICAなどで途上国の森林保全、外交に携わりたい。仕事を早く覚えたい。
- ＊理想や目標は、皆それぞれ異なると思いますが、お互いに切磋琢磨してキャリアアップしていきましょう。
- ★建築区分での入庁をしたので、一番林業についての知識もないと思うので、林学の勉強も怠らないようにしたいと思います。
- ☆同期と会って話して、みんな自分と同じような状況におかれて、同じようなことを思っていることがわかり、少し心強くなりました。
- ★できるだけ早く仕事に慣れ、職員の1人として仕事ができるようにします。上司の皆さんにご迷惑をできるだけ掛けないようにしたいです。
- ☆林業についての知識がほとんどなかったので、この研修を通じてたくさんの知識を得られたと同時に、たくさんの同期と仲良くなることのできた非常に充実した研修でした。
- ◆皆全国各地へ飛び立ち、全く違う業務を行うこともあるかと思いますが、すべて林野庁として森林・林業につながる仕事だと思っています。



多摩木材センターで説明を聞く



沖倉製材所の見学

# 平成27年度 一般職（高卒者）新採用研修

## 教務指導官 福嶋 貢史

平成27年度一般職（高卒者）の新規採用職員32名を対象に、4月14日から17日までの4日間新採用研修を行いました。

瀬戸研修所長から「新規採用職員への期待」と題しての講話や林野庁において今井林野庁長官からの訓辞、林野庁幹部から林野庁職員としての心構えや森林・林業・木材産業の現状、課題等について講話をいただきました。

林野庁への移動では、通勤ラッシュ時の満員電車も経験することとなり、人酔い？して気分が悪くなる研修生もあり、ハラハラの移動となりました。

また、悩みや不安等を聞く場として、昼食（弁当）を食べながら林野庁幹部（全課長以上）との昼食会を実施しました。会話が弾むか心配でしたが、幹部の中には自分の子供の年齢が研修生と同じという方もおり、子供心を熟知しているためか短い時間でしたが大いに盛り上がりました。ただし、研修生は緊張で弁当を食べた気がしたかどうか定かではありません。

神奈川県にある（株）市川屋（製材・プレカット工場）と神奈川県森林組合連合会林業センター（木材市場）の見学では、製材・加工を見るのが初めてや、スギとヒノキの区別がつかない研修生が多く、特にプレカットは驚きの連続のようでした。

最終日には、社会人としての礼儀・マナー、コミュニケーション能力について専門の外部講師を招き講義・演習を行いました。殆どの研修生はつい1ヶ月前まで高校生だったということもありますが、演習において講師の問いかけに無反応の研修生がおり、思い通り進まない演習に、講師は大変苦勞されていました。業務については即戦力とはいかないまでも、職場の雰囲気づくりの面ではフレッシュマンとして力を発揮するのではないのでしょうか。

慣れない土地で不安もあるかと思いますが一日も早く仕事に慣れ、立派な林業技術者となることを期待します。



（株）市川屋 プレカット工場の見学



名刺交換の仕方を学ぶ

# 平成27年度 一般職（高卒者）新採用研修

## 研修生からの一言

平成27年4月14日～17日の期間で行われた一般職（高卒者）新採用研修において、「研修を受けて感じたことや、これからの抱負、仲間へのエール」などを研修生に自由に記入してもらったものです。

※なお、人数等により一部抜粋した掲載としました。研修生の生の声を掲載するため、必要最低限の修正にとどめ、所属・氏名は省略しています。

- ★これから働いていく上で必要な知識や関わっていく現場などを見学することができてよかったです。
- ☆公務員のあり方など、改めて実感したのでこれからがんばりたいです。
- ✱署に戻っても今回学んだことを忘れずに仕事をしていきたいです。
- ◇公務員のあり方や、林業の現状について知ることが出来ました。たくさん貴重な経験をし、自分の糧になったと思います。
- ◆公務員としての自覚を持ってマナー・コミュニケーションをしっかりと出来るようになっていきたい。
- ✱新採用者が一同に集まる機会を作っていただきありがとうございました。年の同じ人間や同じ仕事場の人の色々な意見を知ることができて良かったです。
- ★林野庁の幹部の方々の話を聞くことができ、これからあまり聞くことはないと思うので大変貴重な体験ができてよかったです。
- ☆公務員、林野庁の職員としての自覚をもち、業務内容をきちんと説明できるよう理解しながら仕事をしていきたい。
- ✱初めて同期の方と会うことができ、4月からのお互いの職場のことなど情報交換ができて良かったです。
- ☆マナーや身だしなみ、言動一つ一つに気をつけて、節度ある公務員になりたいです。
- ◆国民の視線を感じながらその人達が満足でき、自分たちもやりがいを感じられることが大切だということが分かりました。
- ✱林野庁の幹部の方々との昼食会ではとても有意義な時間を過ごさせてもらいました。



(株)市川屋で説明を聞く



神奈川県 林業センターの見学



宮ヶ瀬ビジターセンターにて記念撮影



研修所での講義風景

# 「市町村林務担当者基礎研修を受講して」

## 大分県日田市 農林振興部 林業振興課 酒井 浩徳

高尾駅からとぼとぼと、重たい荷物を抱え、緊張した面持ちで歩いて行くと、坂道の途中に研修所がありました。周りを木々に囲まれ、ここが東京の西の外れだと改めて思いました。

林務担当になったばかりで職場で飛び交う専門用語が理解できず戸惑うことが多い私にとって、貴重な経験ができるチャンスと思い、この研修に参加させていただきました。



初日は開講式・オリエンテーションに始まり、森林・林業の基礎知識を学びました。研修生達との雰囲気にも徐々に慣れました。用語の解説、森林計画の体系について写真や図解による理解しやすい話で一から学びました。基礎的知識を得たかった私には期待通りの研修でした。



2日目は林野庁の政策立案担当者からの話を聞きました。取り巻く情勢の変遷から現状と課題、施策の目的や予算要求の際の苦労話など、林野行政のあらましと背景、国の考えを知ることができました。

3日目は、現地実習で、天気にも恵まれ、東京都あきる野市での民有林経営の現状、製材所での地産地消の推進、檜原村で村が行っている林業振興の取組み、多摩木材市場など、川上から川下の現状を見て回りました。それぞれの場所で講師の方から熱のこもった話を聞き、言葉の端々から信念と誇りを感じることができました。

4日目と最終日は5つのグループに分かれて、課題解決について対応策を検討、発表しました。この頃になると研修生同士すっかり打ち解けて、それぞれの意見を自由に述べ合い、地元の現状や取組みなどの情報交換も活発になりました。研修生の中には長年担当されている方もおり、知識の豊富さや森林・林業と向き合う姿勢など、5日間寝食を共にしたからこそ、わかったものもあり、大変刺激になりました。



この研修がなければ一生出会うことがなかったであろう全国の市町村職員の方々。直面する課題や振興策に頭を悩ませるのはどこも同じですが、グループ発表では森林・林業振興という同じ目標に向かって真剣に取り組み、研修生全体の一体感を感じました。今後も他の職員にも参加を是非勧めたいと考えています。

## 魂のこもった市町村森林整備計画の策定のために ～市町村林務担当者基礎研修～ 教務指導官 立岩 久松

民有林行政を所管する市町村では、地域の森林資源の活用ビジョン等を目的とした魂のこもった市町村森林整備計画の策定が求められ、専門技術者の育成が重要な課題となってきています。

この研修は、新たな成長産業として地域の森林・林業再生の中心的役割を担う市町村において、森林・林業に関する基礎的技術の習得、市町村における森林施策の推進と市町村森林整備計画等の作成ができる技能者を育成することを目的に実施しました。

5月18日から22日までの5日間、市町村林務担当者22名が研修生として受講した研修です。

はじめに、森林・林業の基礎知識を理解するため、佐藤首席教務指導官による専門用語から公益的機能、森林法等についての講義、川島森林・林業技術者育成対策官からは市町村に期待する役割等についての講義がありました。



現地実習では民有林経営者の池谷氏(あきる野市)所有山林、檜原村の林業振興への取組み、多摩木材センター、沖倉製材所を見学し地域産材の加工・普及拡大等の取組みについての知識や技術を深めることができました。この研修で学んだことを現場で十分に活かし、地域に根ざした取組みの実施や、魂のこもった森林整備計画を策定されることを期待します。

# チェーンソー伐木造材技術研修、チェーンソー・刈払機研修

林業機械化センター所長 青山 一郎

林業機械化センターでは、今年度も5月27日から始まる「集材架線研修」を皮切りに研修シーズンに入りました。当センターの研修は、近接する国有林をフィールドとした実習に重点を置いている点が特徴です。12月上旬までの間、ほぼ連続して研修を実施します。

6月までに実施した研修の中から『チェーンソー伐木造材技術研修（6月8日～12日）』と『チェーンソー・刈払機研修（6月22日～26日）』について紹介します。



伐木造材作業実習

昨年度まで地方公共団体と森林管理局職員を対象に行ってきた『チェーンソー伐木造材技術研修Ⅰ・Ⅱ』の2回の研修を、研修後に自ら特別教育を実施する立場の地方公共団体職員を対象とした従前同様の『チェーンソー伐木造材技術研修』と、造林事業等の監督業務を行う国有林野職員を対象とした『チェーンソー・刈払機研修』とに再編しました。どちらも「林業における労働災害及び健康障害の減少、安全な事業の推進、基本的な知識及び技術・健康障害防止や危険作業の回避に必要な技術等の習得」を図ることを目的とした5日間の研修です。

これらの研修は、センター職員による「関係法令」、「チェーンソーの取扱い方法」、「健康障害を防止するための目立て」、「伐木造材」及び、「機械の構造とメンテナンス」の講義・実習と、森林総合研究所作業安全担当チーム長の鹿島潤氏による「防護用品の必要性」の講義を共通で組み込んでいます。『チェーンソー伐木造材技術研修』は、伐木造材に係る作業実習の充実と、那須吉郎博士による「振動障害の実態と医療」、広部伸二博士による「ISO規格による振動管理」の講義、『チェーンソー・刈払機研修』では、刈払機に係る講義と実習を付加しています。



刈払機作業実習

研修生は、チェーンソーの目立てや分解・組立てに悪戦苦闘しながら構造やメンテナンスの仕方を習得し、実際に操作することでチェーンソーの取扱を理解していました。『チェーンソー伐木造材技術研修』は各人数本ずつの伐倒、『チェーンソー・刈払機研修』では伐木に加えて新植地での下刈りの実習を通して、それぞれの作業や危険回避について理解を深めた様子でした。また、チェーンソーによる防護衣切断の実演では、防護衣の効果や大切さを実感していました。



チェーンソーの分解組立実習

研修後は「実際に作業して取扱い方法が理解できた」、「安全のポイントをしっかり押さえることができた」、「目立ての重要性が理解できた。難しさがよくわかった」、「防護用品の必要性・重要性を再認識できた」、「請負事業体の現場に行って、現場作業員のチェーンソーを確認し、作業の安全性・効率性を高めることを伝えていきたい」、「現場における監督業務、安全指導に大変役立つ研修だった」等のコメントが寄せられ、林業技術者としての知識・技術と共に自信を深めた様子がかがええました。研修生の皆さんには、研修成果を活かして、それぞれの職場で活躍されることを期待しています。

## 【 連絡先 】

森林技術総合研修所

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu\\_zyo.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kensyuu/kensyuuu_zyo.html)

〒193-8570 東京都八王子市廿里町1833番地94

TEL 042-661-7121 (代表) FAX 042-661-7314

林業機械化センター

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai\\_ka\\_senta.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikai/kikai_ka_senta.html)

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1445

TEL 0278-54-8332 (代表) FAX 0278-54-8280